since 1982

長崎寄席だより vol. 231

林家正蔵 独演会

第232回 長崎寄席

［当日プログラム］

一、落語 林家まめ平
二、落語 林家正蔵
仲入り
三、マジック 沙門 雲
四、落語 林家正蔵

2022 11月26日(土)

開場 17:00 開演 18:00

会場／ひびきホールまいばすけっと3F

ホール

当日一般:3,000円
前売り・予約:2,700円
会員同伴(1名様のみ):2,500円
常連会員:1,500円
中・高校生:1,000円
小学生:500円

ご予約方法

●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。
もしくは右記のQRからアクセスしてください。

●電話
☎080-3386-2952 長崎寄席世話人会(藤井)

落語 林家正蔵

Profile

はやしや・しょうぞう

1978年4月、高校入学と同時に父である初代・林家三平の元に入門する。前座名は「こぶ平」。1980年9月、三平死去。兄弟子たちとともに、父の総領弟子である林家こん平門下に移籍する。1981年、二つ目昇進、1987年、真打昇進。2001年、林家たけ平が一番弟子として入門。2004年、師匠であるこん平が病に倒れる。この頃から師匠に代わり、林家一門の「総帥」としての役割を担う。2005年3月21日、九代目・林家正蔵襲名。2014年落語協会副会長に就任。

2013年には長男が七番弟子として、2019年には次男が大学卒業と同時に八番弟子として自身の元に入門。前座名は長男がたま平、次男がぽん平。たま平は2017年、二つ目に昇進した。初代・三平の父も落語家なので、親子四代に渡って落語家。これは落語界初の快挙だ。

マジック 沙門零

Profile

しゃもん・れい

台湾人と噂の「お茶目な謎の東洋人」。幼い頃、初代・引田天功氏の著書に出会い、独自に研究を始める。大学在学中から世界的なプロマジシャンと交流を深め、学業の傍ら関西を拠点として活動を開始。以来、世界各国のマジックショーやイベントなどで活躍中。

軽妙な語り口と高度な技術によって行われる独創的なマジックは、不思議の中にも笑いがあり、幼い子供から年配の方まで明るく楽しい夢の世界を体験させることのできる華やかさがある。そして、目の前でみせる「クロースアップマジック」と大人数対象の「ステージマジック」の両方を演じることの出来る実力を持つ数少ないマジシャンの一人。

現在、東京、大阪にて定期的にパフォーマンスをする傍ら、テレビタレントのマジック指導やマジック教室の講師を行い、後進の育成にも努めている。

藤井光学は、各種高性能光学系の設計開発および試作から量産まで、
多用なご要望にお応えできる光学設計・製造のプロフェッショナル集団です。

FUJII OPTICAL 藤井光学株式会社

FUJII OPTICAL CO.,LTD.

Designer、Manufacturer of Optical Systems & Lenses

〒171-0052 豊島区南長崎5-9-11☎03-5996-7661

みんなのつぶやき… 長崎寄席雑記

「人」対「人」だから…

長崎もってこい寄席 世話人 前田 克昭

私が「長崎寄席」とお付き合いをさせてもらう様になってもう23～4年になりましょうか。最近はコロナもあって上京できなかったので、すっかり疎遠になっていますが、その間、聞けば世話人トップの柴田さんが退任されたとの事、時の移ろいを感じています。

一方、私はと言うと相変わらずのバカを引っ下げて、西の果てで年5回の定例会をきっちりやり、つい先日105回を楽しく終えました。そこで我が、もってこい寄席の姿勢をチョッとお話します。

まず顔付けは私が一人でやり(これが一番の楽しみ)、パンフレットやチラシの作成も一人でやります。そして芸人さんとの交渉や事務処理に至るまで、一人でこなしています。さらに会が終われば「ヨタロー通信」なるその会の感想や楽屋噺などをハガキ一枚にしたため、お客様全員に出し終えてようやくはじめてその会が終わりになります。

ただ会場設営や受付など、当日の作業は自ら名乗り出てくれた人達に支えられています。なんと彼らは一般客と同様木戸銭を払ってのお手伝いなのです。頭が下がります。

そんな訳ですので、今まで数百人の出演者と直に話をし、コミュニケーションを取って来ました。アナログなお付き合いです。もっとも落語なんてアナログの最たるもので、生身の人間がそこに来て声を発して初めて成立する芸能ですから。

だから「人」対「人」で今までいろいろな事がありました。発信する芸の素晴しさはもちろん、その人の人間性の素晴らしさに触れた時の感動こそがこの活動の醍醐味です。

一方、前述した様に「人」対「人」、「この人は…?」という人とも出会いましたが、いネガティブな事は多く言いませんが、いわゆるビッグ(売れてくる)になったら反っくり返る人なんかその典型ですね(笑)

さて、今回の正蔵師匠ですが、端的に言って本当に尊敬できる人です。物腰やわらかで謙虚で思慮深く、相手をハッピーにしてくれます。

「実る程、頭(こうべ)を垂れる稲穂かな」という言葉がありますが、学問や技能が深まると、他人に対してますます謙虚になることのたとえです。これに匹敵する人との出会いを今まで二人経験しています。それは志の輔師匠と正蔵師匠です。お二人ともそれはビッグな存在なのに、それを微塵も感じさせない素晴らしい人格者です。正蔵師匠は現在落語協会の副会長ですが、いずれは会長の席に着く人だと思っています。

今回は皆さんもそんな正蔵師匠を存分に味わい、ハッピーな気分で家路についてください。

長崎寄席物語 【その4 前田克明さん】

長崎寄席 世話人 柴田 紀和夫

今回はとてもお世話になっている九州「長崎もってこい寄席」主催の前田克明さんのことを書かせてもらいます。林家正蔵師匠を3回ほど長崎もってこい寄席

に呼んだ前田さんから、「師匠の噺は本当に良くなっている。いいよ!」との話を何回も聞いておりましたので、「前田さんからの紹介でぜひ!」と正蔵師匠にお願いいました。「前田さんのご紹介なら喜んで出ます」とのうれしいお返事をいただき今回の会が決定したのです。実は勝手に前田さんのお名前を使って出演交渉したので、前田さんにお詫びしながら正蔵師匠の紹介文までお願いしたところ、快諾してもらいました。

前田さんとの出会いは23年前、1999年7月24日の長崎寄席です。出演者は林家たい平、柳家三太楼(現・三遊亭遊雀)、伊藤夢葉で、寄席終了後は会場の屋上でのビアパーティーが予定されていました。ところが、いつも借りている会場なのにその日はほかの団体に貸されてしまって使えず、急遽屋上で寄席をやることになってしまったのです。この日は大変な強風で、めくりは吹っ飛ぶ、緋毛氈はめくれ上がるなど大変な状況になりましたが、なんとか寄席は終了(この日の状況は、たい平師匠の寄稿で2回ほど掲載しました)。ビアパーティーが始まったところで九州からはるばる来た前田さんと初めてお会いしました。前田さんはこの何年か前に「長崎もってこい落語会」を立ち上げ、東京かわら版で長崎寄席の存在を知り、本場九州長崎の名を語る東京の長崎寄席がどんなものか偵察に来たというのです。不思議なものでビールを飲み、10分もしたら意気投合、「百年の知己」のようになりました。お互いの情報を交換しながら、今後も交流を深めていくことを約束しました。

2007年2月10日から3日間で「前田さんの落語会に行き長崎見物をするツアー」を呼びかけ、長崎寄席の会員約15名でかけたこともあります。寄席で柳家花緑、立川談春の噺を聞き、打ち上げにも参加。翌日は長崎見物という楽しい時間を過ごしましたが、同じ日に私の弟が1人でハイキングに行き、帰らぬ人になったという痛苦の思い出も重なります。

また、前田さんのお孫さんが武蔵川部屋に入門したため、前田さんと稽古の見物に行ったこともあります。ちゃんこ料理までごちそうになるという得難い経験もさせてもらいました。お孫さんは三段目まで行き、怪我のために残念ながら引退されました。

前田さんは今でも年に2回ほど、1週間から10日の休暇を取って東京に来ます。この間は寄席三昧。自分の目で見て耳で確認して、これぞという人に出演交渉します。その結果、寄席に呼ぶのは立川志の輔師匠ほか錚々たる噺家が連なっています。去年12月には柳家権太楼師匠を呼び、盛大に100回記念を行いました。大した席亭だと感心してしまいます。

【芸人交遊録／第3回目】

五代目・立川談志

長崎寄席 世話人 石田 隆則

「だんしとのんだ」それも3回も。とはいえ2人きりではなく、すべて群馬の板倉寄席の打ち上げの席でのことです。

一番初めは2005年頃。板倉寄席で談志師匠の会があり、高座の後、寿司屋の2階で行われた打ち上げに参加したときです。群馬の人たちは遠慮がちで、なんと師匠の近くの席が空いていました。私は図々しくも遠慮なくその席に座り、師匠がどんな話をするのか聞いていました。特別おもしろい話もなく、ただ時間だけが過ぎていくかと思われたそのとき。寿司屋の2階での打ち上げだというのに、他の寿司屋の寿司が差し入れされました。師匠は「もらった物はこっちの物だから、いただきましょう」といって蓋を開けると、近くの人に回し始めました。私のところにも回ってきたので、またもや遠慮なくいただきました。何を食べたのかはすっかり忘れてしまいましたが、翌日大当たりでひどい目にあったことが思い出です。

2回目はその翌年です。師匠が座るだろう席の近くに陣取っていました。すると、「いやー、喉がカーク・ダグラス」と言いながら師匠が入ってきて、予想通り私のすぐそばに座りました。師匠のギャグに対して「それじゃあ師匠、お茶と甘いものでもいかがですか」と返してみました。なんのことだというような目でこちらを見る師匠に「茶、プリン(チャップリン)ですよ」というと、「おお、それいいねえ」と答えてくれました。ヤッター、談志を唸らせたぞ!とうれしかったことを覚えています。

3回目はまたその翌年。「つかれた、つかれた」と言いながら入ってきて、またしても私の近くに座ってくれました。失礼だと思いつつも「それは立川談志だからですか」と聞くと、「そうねえ、オレも若くないからねえ」と答えてくれました。このときはたと気づきました。そう、立川談志は「カリスマ落語家・立川談志」を演じていたのです。若い頃は体力と勢いで乗り切れたものの年には勝てず、1時間近くの噺はきつかったようでした。

師匠である五代目・小さんと喧嘩して落語協会を飛び出した後に落語立川流を創設したり、上納金制度を作って弟子から金を取ったり、寝ていた客をつまみ出したり、国会議員になったり、今だに続いているテレビ番組「笑点」を作ったり、弟子に他人の釜の飯を食ってこいとアルバイトに出したり、毎年自宅の桜の木の下で一門全員を集めて花見をやったり、同業者である落語家を遠慮なく批判して、堂々と「あいつは下手だ」と言ってみたり、出演予定の会をすっぽかしたり。「談志らしい」ことは枚挙にいとまがありませんが、そんな談志を「演じて」いたのではないかと思います。

このときの打ち上げの席の師匠はとても機嫌がよく、だれかれなくサインをしてくれました。私は色紙もなく、サインしてもらうようなものもなかったので、「なにか持ってくればよかった」とぽつりと漏らすと、それを聞いた師匠は自身の名刺をくれました。今でも大切に持っています。この後師匠は体調を崩し、板倉寄席の出演はこれが最後となりました。

そして2011年11月。「だんしがしんだ」。落語界は貴重な人材を失いました。本当に残念なことです。

各病・医院処方箋調剤

漢方相談／東京中医学研究会々員

薬剤師・広田 悦造

(有)ホーム薬局

東京都豊島区南長崎5-10-10

☎03-3951-2869FAX 03-3952-2823

前回の長崎寄席

桂文治独演会

［第231回 長崎寄席］
2022年9月24日（土）

一、つる　桂 空治
一、雨乞い源兵衛　桂 文治
一、粋曲　柳家 小菊
一、お血脈　桂 文治

世話人だより

■本日は週に二度目の台風直撃という悪天候。雨は降り止まぬどころか開場直後が一番危ういという大変な有様でしたが、皆様ご来場ありがとうございます。

■前座を務めるのは、前回に続いて桂空治さん。忘れ物常習犯であることを白状し、桂文治師匠の元でやらかした多くの忘れ物エピソードを告白。そして本日、自分の着物の帯を忘れてしまう大失態。和服で来られた男性のお客様、その節は本当にありがとうございました。

そんな懺悔を経て始まった「つる」。面白い話を聞いたら誰かに教えたくなる。気が急くあまりズレて覚えた内容を、威勢良い口調で一気にまくし立て、外の雨の煩わしさを振り払ってくれました。

■本日は桂文治独演会。前座のあとにさっそく文治師匠が高座に上がります。先の空治さん忘れ物エピソードを継いで、様々な師匠方の忘れ物エピソードを大胆に暴露。しかしながら、忘れ物に端を発した危機を知恵と工夫で乗り越える話の数々には、笑いをこぼしつつもじっくり聞き入ってしまう魅力がありました。

もともとは1月に予定していたこの独演会ですが、文治師匠の体調不良により急遽中止となりました。その時の療養体験の大変さを、愉快な小噺に昇華させ語っていただきました。そうして会場を大いに沸かせて始めた1席目は「雨乞い源兵衛」。大昔に村を襲った大日照りを解消させた雨乞い源兵衛。その子孫である同名の源兵衛さんに依頼した、雨乞い晴れ乞いを巡る一悶着二悶着。無理難題を押し通す庄屋さんの高圧的な説教と源兵衛さんの呆れ具合の絶妙なやり取りで笑いを起こし、正に今日雨に濡れて来られた会場の皆さんの思いと共に、晴れやかな笑いを会場に満たしました。

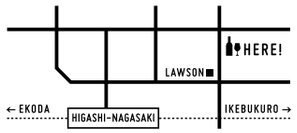
■仲入りでは、長崎寄席恒例の福引会。出演者のサイン色紙を始めとする様々景品が、多くの人の手に渡りました。当選された皆様、おめでとうございます。

■仲入りと休憩を挟んでの後半。長崎寄席には久方ぶりの出演となる、柳家小菊さんの粋曲。小気味の良い歌声で長崎寄席へ案内の掛け声をいただき、「への8番」三部構成を一気にお披露目。続いて軽快な三味線の音に合わせて、都々逸や品川甚句など、じっくりたっぷり弾き語り。江戸の情緒や吉原の面影を、会場中に振りまいていただきました。

■文治師匠の独演会も最後の1席。前半で新作落語を披露いただいて、後半では古典落語の「お血脈」。信濃の善光寺に関する解説に多種多様な話を盛り込み、観客を飽きさせぬどころかどんどん引っ張り込む力強さを遺憾なく発揮。西友に西武線と、長崎寄席に縁のある話題も組み込みつつ、文治師匠の語り口にどんど引き込まれていきます。終盤の石川五右衛門に血脈を盗み出させるくだりでも、その勢いは留まる所を知らず。一気呵成の語り口で石川五右衛門の昇天と共に、本日の独演会も終りを迎えるのでした。

寄席のあと、ちょっと一杯どうですか？

BAR
PUNYPONY
バープニポニ



●月曜日-土曜日
●20:00-26:00
※月曜日は隔週で休みです。
171-0051
豊島区長崎4-13-7

地域密着の不動産業者
足立土地住宅社
東長崎駅・椎名町駅周辺の
マンション・アパート・駐車場等の
管理、仲介を行っています。
豊島区南長崎5-20-16
☎03-3951-3665FAX 03-3954-2325

住宅建築設計施工／一級建築士事務所
株式会社
岩井工務店
町の工務店です。
住宅の新築・リフォームを主に行っています。
豊島区長崎4丁目17-5
ライオンズマンション東長崎108号
☎03-3957-1456FAX 03-3957-1459

電子部品製造
ムサシ電子
株式会社
確かな技術で
高い信頼をお届けします
豊島区千早3-12-3
☎03-3959-3351FAX 03-3959-4990

鮎沢歯科医院
☎03-3565-0118
豊島区南長崎5-14-2
バス停前

Webもチェック!
<<< 長崎寄席Webサイト
長崎寄席twitter >>>

福祉に関することでお困りの時は何でもお気軽に
みんなで支え合う暮らし・みんなの街
地域福祉研究会
ゆきわりそう
〒171-0052 東京都豊島区南長崎5-21-7
☎03-3565-3859

せき・こえ・のどに「浅田飴」
【効能・効果】せき、たん、のどの炎症による声がれ・のどのあれ・のどの不快感・のどの痛み・のどのはれ
4種類の生薬（キキョウ、トコン、マオウ、ニンジン）がせき、たん、のどの諸症状に効果を発揮します
cool　nikki　passion
浅田飴 クールs/ニッキs/パッションs
第2類医薬品
これらの医薬品は、薬剤師、登録販売者に相談のうえ、「使用上の注意」をよく読んでお使いください。
https://www.asadaame.co.jp/　〒171-0052　東京都豊島区南長崎 3-1-5

優良菓子卸
柴田商店
小売も始めました
○ 菓子袋詰め、進物
○ 紀州梅干
豊島区南長崎5-3-13
☎03-3951-5933
FAX 03-3951-5483

次回告知
第233回 長崎寄席
柳家蔵弥・柳家小八
山本光洋（バントマイム）
2023 1月28日（土）
開場／17:00開演／18:00
会場／ひびきホール
まいばすけっと3F
・西武池袋線東長崎駅から徒歩4分
・都営大江戸線落合南長崎駅から徒歩8分
当日一般：3,000円
前売り・予約：2,700円
常連会員：1,500円
会員同伴（1名様のみ）：2,500円
中・高校生：1,000円
小学生：500円
ご予約方法
●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。もしくは右記のQRからアクセスしてください。
●電話
☎080-3386-2952
長崎寄席世話人会（藤井）